
2020年度 事業計画

学校法人 日本女子大学

2020年度は、「学校法人日本女子大学中・長期計画(2014年度～2023年度)―2019年度見直しについて―」に基づき、学園の発展に向けた事業を計画します。特に創立120周年を翌年度にひかえ、創立110周年時に定められた目標Vision120の実現に向けて、教育改革の実質化を進めます。大学のキャンパス統合に係る多くの費用を自己資金で賄うため、安定した財政基盤の確立を継続していきます。

持続可能な社会の実現に向けた取り組みを学園全体で進めるとともに、学生、生徒、児童、園児が、安全で安心な環境の中で学べるように、以下に示す事業を計画いたします。

1. 学園の将来構想

本年度は「学校法人日本女子大学中・長期計画(2014年度～2023年度)」の重点実施項目として掲げた項目の実現に向け、具体的な検討を進める。また、「Vision120を契機とする教育改革計画」の実現に向け、理事会のもとに学園総合計画委員会を設置して教育・研究・社会貢献の実施計画、キャンパス計画、財政計画、各種学修支援の充実、一貫教育のあり方などについては具体的な検討を継続して進める。

特にVision120に続く10年後を見据えた学園のビジョン策定に向けて準備を進める。

また、将来に向けた西生田キャンパスの活用については、具体的な計画をまとめるとともに、老朽化が進んでいる学園内の施設・設備等について点検を行い、修繕や改修、更新を含めた中長期の保全計画をまとめる。

2. 理念・目的

① 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する新たな時代に向けた自校教育の導入

建学の精神、教育理念について、次世代に即した新たな自校教育プログラム・教材の開発を進め、一部2020年度より導入する。

② 大学院の教育研究上の目的の見直し

各研究科・専攻の人材の養成に関する目的、教育研究上の目的について、大学院の理念・目的と関連し、かつ特徴が示された適切な目的であるか見直しを行う。

3. 内部質保証

① 内部質保証の実質化と教学マネジメント体制の確立

学長のもとに置かれた大学改革運営会議を中心とした教学マネジメント体制により、学長のリーダーシップのもとに教育改革を継続的に推進する。

内部質保証体制の実質化及び大学基準協会第3期認証評価の指摘を踏まえ、内部質保証システムを有効に機能させるため、自己点検・評価体制の再構築を行う。

4. 教学計画

(1) 大学 教育研究組織

① 学部・学科再編構想の取りまとめ

Vision120 に示された「四つの科学系統（人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展」を目指し、総合大学のメリットを十分に生かした知のフロンティアを拓くための学部・学科再編の検討を継続し、2022年度以降の中期的な学部・学科再編全体計画を策定する。

② 全学共通科目を担う新たな基盤教育等運営体制の構築

基盤的教育、人工知能（AI）、データサイエンス（DS）及び社会連携教育など新しい全学的な共通教育について、カリキュラムの移行措置も含め、キャンパス統合の2021年度より効率的に運用できるよう運営体制等を構築する。

③ 新たな時代に求められる附属機関の将来構想

附属機関のあり方・運営体制について、理念・目的を全学的視点から検証した上で、附属機関の構成について検討する。更に各附属機関と学部教育及び大学院教育の連携や、附属各機関間における有機的な連携の推進等を図る。

④ 学術情報リポジトリの充実

学術情報リポジトリの充実を図るため、運用指針を周知するとともに、諸課題への対応を行い、累積登録件数の5%増加を目指す。

(2) 大学 教育課程・学修成果

① キャンパス統合後のカリキュラム整備の完成

キャンパス統合後のカリキュラム（卒業要件単位表含む）の確定及び時間割編成方針を策定する。

② 単位の実質化及び成績評価の厳格化の推進

単位の実質化を図るために、履修登録単位数の上限等について見直しを行う。

また、成績評価の厳格化に向けて、学生の学習到達度を適切に測る方法を検討する。

「教学マネジメント指針」で示された学修者本位の教育、学修成果・教育成果の把握及

び可視化、情報の公表への対応を進める。学修者本位（目線）の教育課程への転換をはかるため、教育成果について社会を主体とする「アウトカム」で測ることができるような評価システムを導入する。

授業科目の精選・統合（科目のスリム化）及び学生の履修授業科目数の絞り込みに向けた科目設置基準を策定する。

③ 学修成果・教育成果の可視化の促進

2020年度より「アセスメントプラン」を運用し、学位プログラムについて総合的な点検・評価を行うため、学位授与方針（ディプロマポリシー）に示した学修成果・教育成果の把握の方法を策定する。

大学院においては、学位論文審査基準と学位授与方針に示した学修成果の連関を明文化する。

④ Society5.0に対応できる教育課程の導入・強化

人工知能（AI）、データサイエンス（DS）等、Society5.0の時代に求められる力を養うため、キャンパス統合の2021年度からの導入を目指し、情報通信技術（ICT）を活用した全学生対象の文理融合の新たな情報教育・研究プログラムを策定する。

⑤ 女性の活躍を支援するキャリア教育の見直し

女性の生き方を探るキャリア教育、基礎的・汎用的能力の養成、学生の社会での実践的な学びを可能にするべく体験を生かす社会連携教育等、キャンパス統合の2021年度から新たなキャリア・社会連携教育プログラムを導入できるようにする。

⑥ 通信教育課程の推進・通学課程との連携強化

通信教育課程のICT化推進による教育方法の多様化と充実、社会ニーズに対応した新たなプログラムの導入等を進めるとともに、引き続き広報活動を積極的に展開し、入学者数の目標（240名・前年比10名増）を達成する。

通学課程との連携強化として、相互履修の拡充、転籍制度導入に向けた具体案を作成する。

（3）大学 教員・教員組織

① 学園の将来計画に基づいた全学的見地からの各学部・各研究科の教員組織編制に関する方針の明示

2021年度のキャンパス統合、2022年度以降の将来的な学部・学科再編を見据え、全学的な「教員組織の編制方針」を策定する。

時代や社会の状況に応じ、教育研究領域に適合する適切な専門分野の教員を配置し、学部の様態をアクティブに変化させ続けるように配慮した教員採用計画等、学部・研究科の連携を意図した新たな教員組織構造を検討する。

② FD体制の見直し

ファカルティ・ディベロップメント(FD)体制を見直し、組織的なFDの取り組みを推進する。これに伴い、JWU女子高等教育センターを中心として、FD委員会、大学院FD委員会の関連性、あり方について検討をまとめる。

③ 全学委員会体制の見直し及び整備

2021年のキャンパス統合時から新たな委員会体制での運営が開始できるように、現行の全学委員会体制を再編成して、整備する。

(4) 附属校園

① 一貫教育

特色ある一貫教育の実現のため、学園全体の教職員が参加する学園一貫教育研究集会の実施を継続するとともに、そのあり方及び報告書について検証を行う。

② 特色ある教育（幼稚園）

昨年度に引き続き教育課程の見直しと検討を行う。幼稚園では環境を通しての教育が重要であるため、自らの経験が思考力の基礎となることを意識し、子ども自身が考え、試すことができる環境を整える。

幼児教育の無償化に伴い教育の質の向上が求められるため、保護者による園評価と教員の自己評価に加えて学校関係者評価の実施を検討していく。

③ 特色ある教育（小学校）

2020年度新学習指導要領実施に際し、英語の教科化・時間増のカリキュラム実施、及び海外交流体験を実施する。また既存の主体的・発展的な活動をアクティブ・ラーニングとして体系づけ、児童の総合的な力を伸ばす活動とする。

児童のアフタースクールとして、2015年9月の開設後、運営が安定してきた一般社団法人JWUほうめいこどもクラブの利用者拡大に対応できるよう、小学校の協力を継続する。

④ 特色ある教育（中学校）

一貫教育の豊かな学びを実現するため、特別プログラム開講予算による英語・国語・数学の特別授業（スタディクラブ）を継続して基礎学力の底上げを図るとともに、生徒の学習意欲に応える為、英検対策講座や放課後フィットネス等の放課後、学期末、休暇中に実施する補習、特別授業の更なる充実を目指す。また、時代のニーズに合わせ海外研修プログラムを再開し、2021年度アメリカ・シアトル8日間の研修実施を目指して下見を行い、研修企画を策定する。

⑤ 特色ある教育（高等学校）

高大連携の更なる具現化を目指す。特別プログラム開講予算を活用し、土曜日や長期休暇等を活用した特別講座（知の泉）を拡充する。英語教育については、同予算にて英検インテンシブ講座（夏休み）とチューター制（補習）の実施に加え、TOEIC 対策講座の他、TOEFL 対策講座開設で更なる充実を図る。国際理解教育では、現行のニュージーランド語学研修や学外の留学制度利用を活性化し充実を目指す。また、2022 年度から年次進行で実施される新学習指導要領を踏まえ、本校の教育理念に基づいた教育課程改定の検討を進める。

⑥ 特色ある教育（小学校・中学校・高等学校の ICT 教育）

小学校では、情報授業でのプログラミング、その他の教科内でのタブレット活用をカリキュラムに体系づけ実施する。中学校・高等学校では、2020 年度に中高校舎全体に無線 LAN 環境が整備されることに伴い、iPad 導入台数を増やすなど ICT 教育の充実を図る。中学校は 2021 年度より全面実施となるプログラミング教育の導入に対応する。高等学校では、大学で使用中の manaba のライセンスを高等学校生徒にも割り当てることによりポートフォリオの利用を開始し、大学への接続を具体化する。

5. 学生の受け入れ

（1）大学

① 大学・大学院入学志願者の安定的確保と更なる拡充

文部科学省公表の「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」への対応を更に進める。具体的には 2021 年度入試より新たな入試区分による入学者選抜を実施する。また、家政学部と理学部で従来の 2 教科型に加え 3 教科型入試を導入する。

大学院については、定員充足率の向上につなげるための方策をまとめる。

入学者選抜の体制として、類似した役割を持つ入学委員会と入学試験協議会の関係性明確化、それぞれの職掌範囲・権限の棲み分けについて整理し、対応案を立案する。

② 高大接続の検討・実施

大学教員による、附属高等学校生徒及び一部の高等学校女子生徒を対象とした春期セミナーについては、対象校を更に拡大する。

また、附属高等学校生徒を対象とした留学準備プログラムについては、内容や構成、開催時期等の見直しを実施する。

附属高等学校生徒を対象とした大学の授業科目の先取り履修制度については、2021 年度以降に他の高等学校女子生徒にも対象を広げられるよう検討を開始する。

③ 入試広報

オープンキャンパス等について、受験生及び関係者の満足度向上を目指して取り組むこ

とに加え、本学の魅力・優位点を確実に訴求するべく改善を図る。

また、高等学校からの大学訪問受け入れを充実させ、高等学校訪問型ガイダンスへの本学からの参加を積極的に推進し、更なる志願者の獲得を目指す。

大学の日々の出来事・話題等、さまざまな情報を収集し、大学公式 WEB サイトにおいて、受験生・保護者を一層意識した情報の発信を図るとともに、Twitter・Instagram のコンテンツを更に充実させる。

大学院については、本学への留学を希望する国外在学者に向けた WEB サイトでの情報発信を継続する。具体的には英語版大学院ガイドを公開する。

(2) 附属校園

① 入学志願者の安定的確保と資質確保

附属校園の入試のあり方について、各校園の広報部を中心に全学園的な取り組みを行い、意欲の高い優秀な入学者を安定して確保することを目指す。

幼稚園では、志願者のニーズに対応した公開行事を企画するとともに、外部団体主催の学校紹介の催しにも参加し、新たな広報活動を行う。

小学校では、前年度の分析を基に、幼児教室対応や学校公開行事等を見直し、より有効な広報計画を策定する。また、教育アドバイザーの協力を得て、本校の特色と受験生のニーズが結びつく教育内容を重点的に発信する。

中学校・高等学校では、インターネットを利用した出願、合格発表・入学費用決済など出願環境の進展に対応した手続き処理の充実を継続して図る。中学校では、2021 年度入試より 1 月中に事前面接を実施するなど、志願者確保に向け新たな対策を実施する。高等学校では、厳しい状況下、志願者確保に向けて広報活動等を拡充していく。

6. 学生支援

① 障がいのある学生への修学支援体制整備

障がい学生支援委員会を中心として、従来の支援体制のあり方を検証し、各学科や関連部署と連携しながら、よりわかりやすい体制の整備を行う。

② 新たな学寮のあり方についての検討

学寮のリノベーション工事が完了したことに伴い、学年を問わず新しい生活ルールでの寮生活が始まるため、寮生自治の支援及び生活ルールを軌道に乗せるための支援を行う。

また、学寮の必要入居者数を充足するため、安定した入寮者確保の施策を実施する。

③ 学生の経済支援の充実

経済支援を目的とした学内給付奨学金について、学内関係各部署及び関係機関と協議しながら、高等教育修学支援新制度と支援対象者が重複しないよう制度改正を行い、学生へ告知、募集をする。

④ トランス女性の学生の受入体制の検討・整備

受入体制構築のスケジュールを検討するとともに、啓発活動として、学生及び教職員向けの講演会やダイバーシティ委員会で業務委託をしている LGBT 対応のためのアドバイザーによる講座等の開催、保護者・卒業生に向けたダイバーシティ委員長からのメッセージの発信等を行う。

⑤ リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動

学生自治会が主催して行うリーダーズミーティングの内容が充実したものになるよう支援する。また、2021 年度のキャンパス統合後も、全学の学生が協力してサークル活動や学園祭を行うことができるような体制を構築する。

⑥ ラーニング・コモンズの活用推進

図書館内のラーニング・コモンズでは、更なる利用促進と利用者満足度の向上を図るとともに、2021 年度から利用が開始される新たなラーニング・コモンズの効果的な活用について運用体制を整備する。

⑦ キャリア支援の強化

社会状況の変化に対応し、学部生・大学院生の進路支援が適切に行えるよう、柔軟且つ動向に合わせた支援プログラムを継続的に企画・実施し、前年度より就職率の向上を図る。

大学での学び、他者との積極的関わり等の経験が自らの糧となり、将来のキャリアに繋がっていくという本来あるべき「学生としてのキャリア形成」を意識して過ごせるよう、低学年からのキャリアガイダンスで各種講座を開催する。

また、多様化する就職環境に対応するため、新卒応援ハローワーク等公的機関の支援を利用し、マナー講座等の実践型プログラムやグループディスカッション等の課題解決型ワークショップを実施する。

⑧ 留学制度の充実と留学生受入体制の整備

本学学生の留学及び外国人留学生の受け入れについては、2018 年度制定の「国際化推進の基本方針」の方針に従い、継続して進めていく。

留学制度についてはアジアの大学との協定締結も視野に入れ、引き続き交換留学ができる協定大学を拡充する。また認定大学留学制度の見直しを行い、学生にとってより良い支援を再構築する。

外国人留学生の受け入れ体制充実については、日本語教育を学ぶ日本人学生が、留学生のライティングを手助けする仕組みづくりを構築する。日本人学生と留学生の活動拠点として、ランゲージ・ラウンジを交流のハブとして活用する仕組みを構築する。

7. 教育研究環境

① 大学改革運営会議における「研究 Vision」の策定及び研究支援体制の整備

更なる研究活動の積極的な展開を目指すため、大学改革運営会議において「研究 Vision」を策定し、それに基づいた体制の整備を図る。

② 大学院生に対する「研究倫理教育」の受講推進

大学院生に対して実施している「研究倫理教育」の受講について、より積極的に促す取り組みを行い、受講率を80%以上とする。

③ 大学図書館の機能向上及びキャンパス統合に伴う蔵書移動・西生田保存図書館計画の推進

両キャンパスにおいて大学図書館の円滑な運営を図り、利用者サービスを向上させる。

キャンパス統合時の蔵書移動の円滑な実施が図れるよう計画するとともに、キャンパス統合後の西生田保存図書館計画を取りまとめる。

④ Vision120 に基づく目白キャンパス構想

西生田キャンパスから移ってくる人間社会学部の研究スペースや教室等が入る予定の教室・研究室棟（仮称）及び学生の食堂スペースにもなる新学生棟（仮称）について、今年度の竣工に向けて計画通り工事を進める。新泉山館、百年館、樟溪館等の既存建物については、キャンパス統合に備えて必要となる研究室、会議・事務スペースの改修工事を実施する。また、学内各部門と連携しながら授業外学習環境を充実させるため、教室・研究室棟（仮称）に新たに設置するラーニング・コモンズへ必要な什器・設備等の整備を行う。

⑤ 教室等設備の更新

新しく竣工する教室・研究室棟の AV 機器の設置計画はもとより、既存建物各教室の AV 機器についても計画的な更新を進める。

第一体育館については、夏の授業等に対応するため新たに空調設備を整備する。

⑥ 情報通信技術（ICT）を活用した教育の推進と学生支援

キャンパス統合に向けて、コンピュータ演習室の見直しを行い、サーバーを含めた設備更新を行い、更に充実した ICT 環境を提供する。また、学生ポータルシステム（JASMINE-Navi）については学生ポートフォリオ機能を追加し、更なる学生サービスの充実を図る。

⑦ 附属校園の安全・安心な生活環境の構築

学園で生活する園児から生徒のすべてが安全で安心して過ごせる生活環境を整備する。

幼稚園では、近年の園児の多様化に対応して、園児への支援者の配置を継続するとともに、

怪我や事故の防止のため保育補助を配置する。また、教員の安全意識を高める研修を行う。

小学校では、第一・第二校舎の教育環境の再点検及び計画的な修繕の検討を進め、本年度は豊明講堂床の全面補修を実施する。また、通学路及び学校周辺の安全体制を再構築し、小学校前の歩道橋落橋による新たな横断歩道の使用に対応するため、幼稚園・大学と連携し目白通りの安全な横断の方策を実現する。

ICT教育の高度化に対応するため、豊明小学校、附属中学校・高等学校の各教室の無線LAN環境を整備する。

8. 社会連携・社会貢献

① 社会連携教育センターの設置・運営

社会に開かれた知的活動拠点として、質の高いハブ機能を持つ全学的な社会連携教育センターを設置し、地方自治体、学外の教育研究機関、企業その他の団体との連携・交流を促進し、地域社会の課題解決及び社会連携に関する教育活動を推進する。

また、各学部・学科の社会連携・社会貢献の活動の情報集約を行い、各々の活動の連携強化や学外に向けて本学の社会連携・社会貢献の広報活動を一元化して発信する。

② 社会連携教育科目の運営及び社会連携教育科目群の拡充

地域と連携した教育課程の編成を推進し、課題解決学修及びサービス・ラーニングのカリキュラム開発を行い「地域を知る、地域の課題を知る」→「地方自治体に政策提案する」→「自治体がヒントとしてとらえ、施策として実現につなげる」という流れをつくる。

③ 地域社会連携の推進

学園祭において、地域住民との交流を図ることができるようなイベントの企画を支援するなど、行政や近隣大学・近隣地域との連携事業を促進し、地域に根ざした大学を目指す。

キャンパス近隣の自治体の包括連携協定の締結の他に、遠隔地の自治体との包括連携協定を積極的に進め、8件以上の協定締結を実現する。

④ SDGsへの対応

「SDGsに取り組む日本女子大学ステートメント」に則り、社会貢献活動を通し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための取り組みを公表する。

⑤ 生涯学習センター事業の推進

公開講座事業については、学内外の生涯学習活動の連携を図り、地域連携講座、寄付講座、卒業生団体との連携講座、キャリア支援講座、VODコンテンツなど多様な講座を引き続き提供する。

リカレント教育課程は、社会情勢に適応した支援のあり方やカリキュラム等を点検し質の向上を図るとともに、ニーズ調査の結果に基づき、新しいキャリア形成・再就職支援システムの再構築を目指す。また、産官学連携として、地域企業の人材確保や採用拡大事業、文部科学省の「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」を通じて関係大学と連携し、実務家教員養成を推進する。新たに発足した「女性のためのリカレント教育推進協議会」では幹事校として女性活躍のための事業を推進する。

9. 管理運営

① 学園運営に関わる業務体制の充実

キャンパス統合を控え、新たに発生する各種業務に現体制で適切に取り組みつつ、キャンパス統合以降の新たな体制（組織・事務分掌・職員の人員計画と配置）を確定させる。

各種法令の改正に加え、キャンパス統合に伴う学内諸規程の整備を進めるとともに、適正な運用を行う。

② 防災体制の見直しと防災意識の定着

大規模地震及び災害に備えて、学園関係者への防火・防災に対する意識の更なる向上を図るとともに、マニュアルの整備、防災備蓄品の充実等、防火・防災体制の整備、事業継続計画の策定を進める。

③ 安全管理面の強化

警備体制の見直し・強化を図るとともに、新しい目白キャンパス計画を踏まえたセキュリティ体制を構築する。

環境安全委員会の下、化学物質等安全管理委員会を設け排出量に係る必要な報告書類を提出するとともに、危険物の管理徹底を図る。

④ 労働安全衛生の充実

労働安全衛生向上のため、職員の一層の能力向上、部署間の連携強化や業務を見直すことなどによる事務効率の向上を図り、働き方改革に対応するため時間外労働時間を前年度より抑制する。

⑤ 環境問題への取り組みの推進

廃棄物削減及びリサイクル率、循環再生紙利用率の向上を図るとともに、学園構成員の廃棄物処理に対する意識向上を目指す。

両キャンパスともに危険な樹木等の剪定・伐採を行い、防災の観点からも安全で適正な管理に努め、自然環境の保持・整備を図る。特に目白キャンパスにおいては、新しいキャンパス計画を踏まえた管理・整備を行う。

西生田キャンパスでは水田記念公園を中心に教育・研究の場として維持していくための

定期的な点検・整備を継続して行う。

地球温暖化対策委員会の下、学園内の省エネ活動に係る啓発活動に取り組む。

⑥ 学園広報の充実

大学公式 WEB サイトリニューアルに引き続き、附属校園公式 WEB サイトの見直しを図り、ステークホルダーを一層意識した学園広報を進める。

学園のブランディングの向上を目指し、教員による研究内容のマスメディアでの発信等、パブリシティを活用した広報の強化を目指す。その端緒として教員の意向調査を行う。

対外的な危機管理能力を強化するべく、マニュアルの見直しと体制の強化を図る。

⑦ 検収制度

公的研究費の適正な管理運営体制の一貫として、引き続き検収の充実を図る。

⑧ 西生田キャンパスの新たな活用法の検討

2021 年 4 月の目白キャンパス移転以降の西生田キャンパスの跡地利用について、学園総合計画委員会において具体案を決定する。

⑨ 創立 120 周年記念事業募金の推進

理事会の下に設置された募金推進体制の下、創立 120 周年記念事業の周知と募金への意識を更に高め、教職員・卒業生等の学園関係者に加え、法人への募金活動を重点的に展開し目標額を達成する。

⑩ 収益事業法人の設立の検討

キャンパス統合後の目白キャンパスにおける新規事業や西生田キャンパスの管理運営の検討とあわせて、収益事業法人の設置について方向性を決定する。

10. 財務（予算）

（1）中・長期財政計画に基づく収支バランスのとれた予算の編成

事業活動収支は中・長期の財政計画に基づき、長期的にバランスを取ることを目標としており、2020 年度予算は上記に記載の各事業を執行するため、特定事業^(注)を除く事業活動収支において当年度収支差額の均衡を図ることを基本方針として編成を行った。

大学においては、Vision120 に基づく各種事業を実施するための予算を計上するとともに、2015 年度より開始した創立 120 周年記念事業募金の更なる展開により自己資金の充実に努めることとしている。

2020 年度当初予算における事業活動収入は 134 億 1 千 7 百万円、事業活動支出は 131 億 2 千 4 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は 2 億 9 千 3 百万円の収入超過、基本金組入後の当年度収支差額は 39 億 4 千 2 百万円の支出超過となっている。なお、特定事業を

除いた収支における基本金組入後収支比率は 100.0%である。

(注) …創立 120 周年記念事業 (6. 教育研究環境)、環状第 4 号線拡幅対応関連事業、目白寮運営費 (5. 学生支援)、消費増税その他中・長期で収支を確認するものを特定事業とし、これに係る収入及び支出を除外して収支状況を判断する。

具体的な予算の内容は以下のとおりである。

①事業活動収支予算について

<教育活動収支>

収入については、学生生徒等納付金において、現在の在籍者数を基準とし、大学学部及び附属校園の新入生は定員と同数の入学者を見込み計上している。支出については、経常的な費用のほか教育改革に係る予算を計上しており、その結果、教育活動収支差額は 4 億 1 千 8 百万円の収入超過となっている。

<教育活動外収支 (資金調達及び資金運用に係る財務活動収支) >

受取利息・配当金は運用状況をもとに計上し、借入金等利息は計画に基づき計上した結果、教育活動外収支差額は 5 千 2 百万円の収入超過となっている。

<特別収支 (特別な要因により一時的に発生する臨時的な事業活動収支) >

施設設備寄付金として創立 120 周年記念事業募金による寄付金を計上している。その他の特別支出のうち退職給与引当金特別繰入額は退職給与引当金の算定基準変更に伴い 2011 年度決算から 10 年間にわたり計上している。

その結果、特別収支差額は 1 億 1 百万円の支出超過となっている。

<基本金組入額>

基本金には、土地及び建物設備等の取得金額である第 1 号基本金、将来の建物等取得のための積立teを行う第 2 号基本金と奨学基金の積立teを行う第 3 号基本金、支払資金として確保しておくべき第 4 号基本金があるが、当年度に取得する施設設備及び借入金返済による組入れを見込み、第 1 号基本金に 42 億 3 千 5 百万円を計上している。

②資金収支予算について

資金収支取引において特記すべきものは次のとおりである。

その他の収入の教育研究施設拡充引当特定資産取崩収入は、創立 120 周年記念事業及び環状第 4 号線関連の支出に充当する金額を計上している。施設関係支出のうち建物支出には、創立 120 周年記念事業の教室・研究室棟 (仮称) 新築工事、新学生棟 (仮称) 新築工事などを計上している。設備関係支出では、創立 120 周年記念事業の什器・備品、教育装置及び研究装置並びに教育基盤設備及び特別設備等の補助対象設備の購入を見込み計上している。

資金収支計算の結果、支払資金は年度当初から 13 億 8 百万円減少し、66 億 6 千 7 百万円となる見込みとなっている。

(2) 適正な予算執行

事業活動収入の点検及び適正な予算執行統制により、教育改革の実現に向けて財政基盤の確立に取り組む。

また、適正な予算執行の結果、2020年度決算において次の目標を達成する。

<2020年度決算財務比率目標>

- ・基本金組入後収支比率 100%以下 (特定事業分を除いた比率)
- ・人件費比率 59.0%未満
- ・教育研究経費比率 32.0%以上
- ・総負債比率 18.0%未満
- ・流動比率 240.0%以上
- ・積立率 48.5%以上

(3) 安定した収入の確保と人件費及び経費の抑制策の検討

安定した教育研究の遂行のための財政基盤を確立するため、収入の確保(学費の改定)、人件費及び経費の抑制策について、具体的な数値目標を設定し検討を進める。

以上